

アリについて

池田博明

研修報告用草稿 2011年8月14日

マレーシアのボルネオ島のマリアウ・ベysin MALIAU BASIN 保全地域を訪れた私たちを驚かせたのは巨大な、腹部の赤いアリだった。また、低地の熱帯雨林でハエトリグモを発見しようと、数少ない低木をビーティングすると、クモ受けの傘の上に落ちてくるのは多くの種類のアリだった。樹上性のアリが多いのだ。

サバ州タンブナン村 TANBUNAN VILLAGE のホテル 7 lodge では、柵の内側の樹木をビーティングしたところ、ツムギアリの巣をたたいてしまい、巣をたたき落としたとたん、アリが群がってきて身体じゅうをかまれた。「痛い！」。すぐ近くに比較的若い葉の直径 30cm 近い巣もあった。

このホテルの外苑には、垣根の植え込みの地表 1.8m ほどのところには泥で固めたボール状のアリの巣があった。表面にアリはいなかったが、棒で巣をつつくと小さな穴からわらわらとアリが出てきて、アツという間にいっぱいになった。

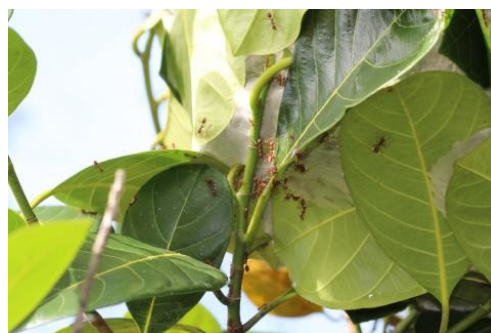
文献によると、腹部の赤いオオアリ（体長 3cm）の英名は giant forest ant、学名は *Camponotus gigas*。クロオオアリ（体長 1cm）など日本のオオアリ属と同じ属なのには驚いた。まるで大きさがちがうからだ。この巨大アリは低地の森林の林床に少数が普通に見られる。夜になると多くの個体がキャノピーに上り食料を調達するそうだ。兵隊アリは体長 3cm と大きく、働きアリは体長が 2.5cm ほどである（説明も写真も「マリアウ・ベysin」による）。



「マレーシア・エンサイクロペディア 動物篇」によると、マレーシアの庭園でよく見かける普通のアリは三種類、ツムギアリ（現地名 kerengga、英名 weaver ant、学名 *Oecophylla smaragdina*）、ファイヤー・アント（現地名 semut api、英名 fire ant、学名 *Solenopsis geminata*）、ブラウン・クレイジー・アント（英名 brown crazy ant、学名 *Anoplolepis longipes*）だそうである。



ツムギアリは体長 8mm のオレンジ色、女王は緑色でオスは黒い。敵に蟻酸を放出してヒトの皮膚にかかるとひりひりする。幼虫が蛹になる前に糸を出し、その糸を働きアリが紡ぐ。「働きアリは成熟幼虫をくわえて葉の一点に押し付ける。そこに糸が固定されると、スウッと引っ張って別の葉に・・・といった具合に、次々と葉を糸でつづっていく」（久保田, 2008）。



たたき落としてしまったツムギアリの巣に数時間後に行ってみると、アリはすっかりいなくなっていた。葉と葉の間のつむぎ糸を確認しようと思ったが、もろくなったらしく糸は無かった。葉のふちの繊維が白くなっていた。

垣根にある泥で葉を固めたような巣には、赤いアリがたくさん住んでいた。



タンブナン村郊外の路傍から腹部の赤い巨大なアリグモ(雄)が採集できた(体長 1cm、顎を入れると約 1.5cm)。このアリグモは移動するときに糸を出さないため、まるでアリに見える。観察用の管びんの中では糸を出したから糸を出せないわけではない。giant forest ant に擬態しているように見えるが、乾燥のきびしい里山にはモデルのアリが住んでいない。私たちが目撃しているのは過去の進化の名残りだろうか。



参考文献

Hans P. Hazebroek, Tengku Zainai Adlin and Waidi Sinun, 2004. MALIAU BASIN. Natural History Publications (Borneo), 235p.

E. Soepadmo (ed.), 1998. The Encyclopedia of Malaysia, Animals. Archipelago Press. 144p.

久保田政雄, 2008. アリの生態・ふしぎの見聞録. 技術評論社.